

## 0.1 過去データ取得モジュール

以下に、モジュールの仕様概要と操作手順を示す。

表.1 モジュールの仕様概要

No	項目	内容
1	DLL 名	McGetPastData.DLL
2	概要	過去のデータを取得する。
3	送受信のパターン	受信 ①任意値 伝送仕様：1次元時系列データ セル内変数：ANY_VALUE (-)
		送信 ①任意値 伝送仕様：1次元時系列データ セル内変数：ANY_VALUE (-)
4	接続方法	受信 ・要素接続は、1次元時系列で行い、任意値を入力する。 ・上記以外の接続は、できません。
		送信 ・要素接続は、1次元時系列で行い、任意値が出力される。 ・上記以外の接続は、できません。
5	基礎式	なし
6	備考	
7	サンプルプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"><li>・過去データ取得モジュール(内挿).prjdb (内挿した過去データ取得サンプル)</li><li>・過去データ取得モジュール(ステップ値(現時刻)).prjdb (ステップ値(現時刻)の過去データ取得サンプル)</li><li>・過去データ取得モジュール(ステップ値(先時刻)).prjdb (ステップ値(先時刻)の過去データ取得サンプル)</li></ul>

(1) 過去データ出力パターンの場合

1) モデル接続

モデルの接続方法を、以下に示す。

①要素の配置を行い、下図に示すモジュールを設定する。

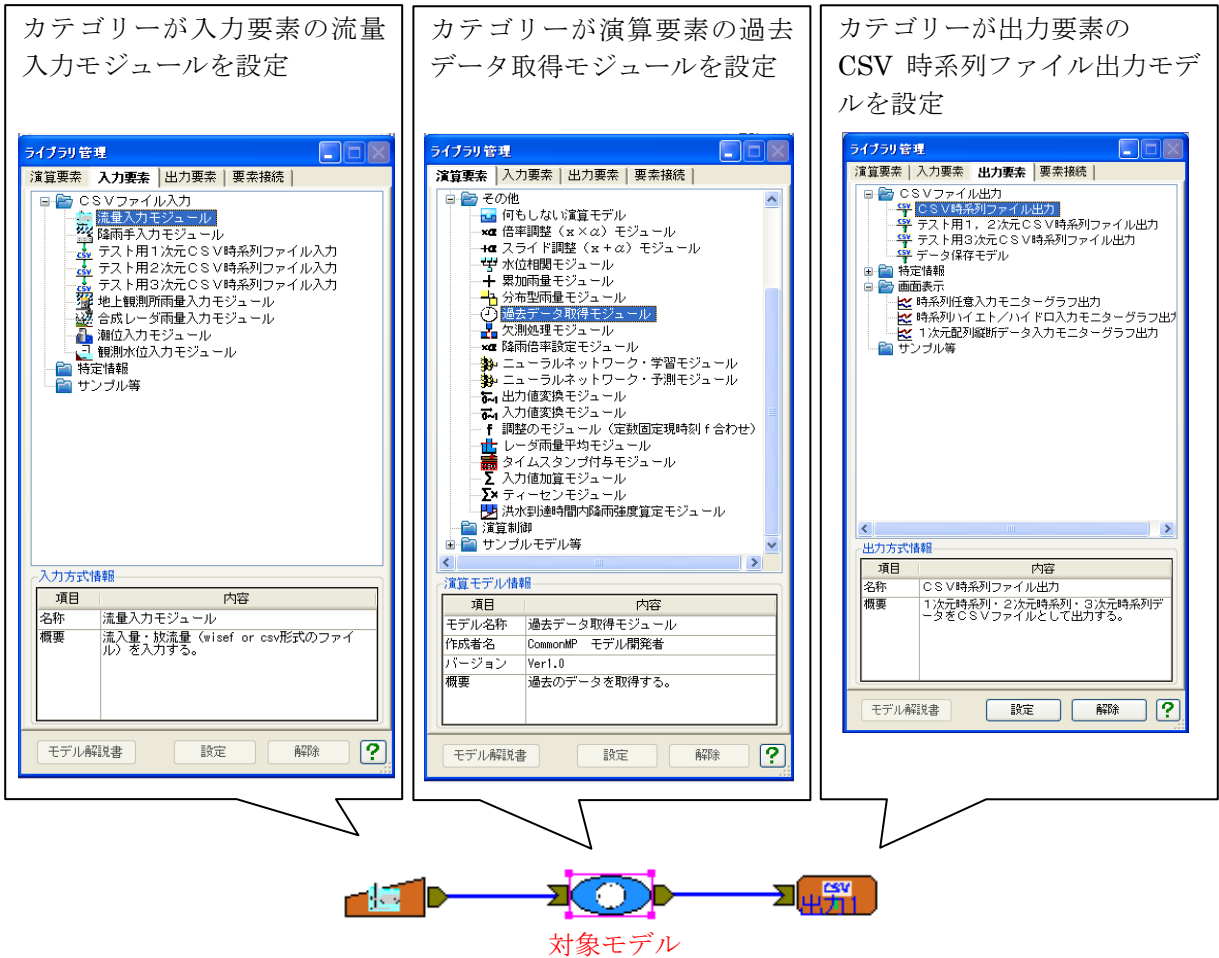
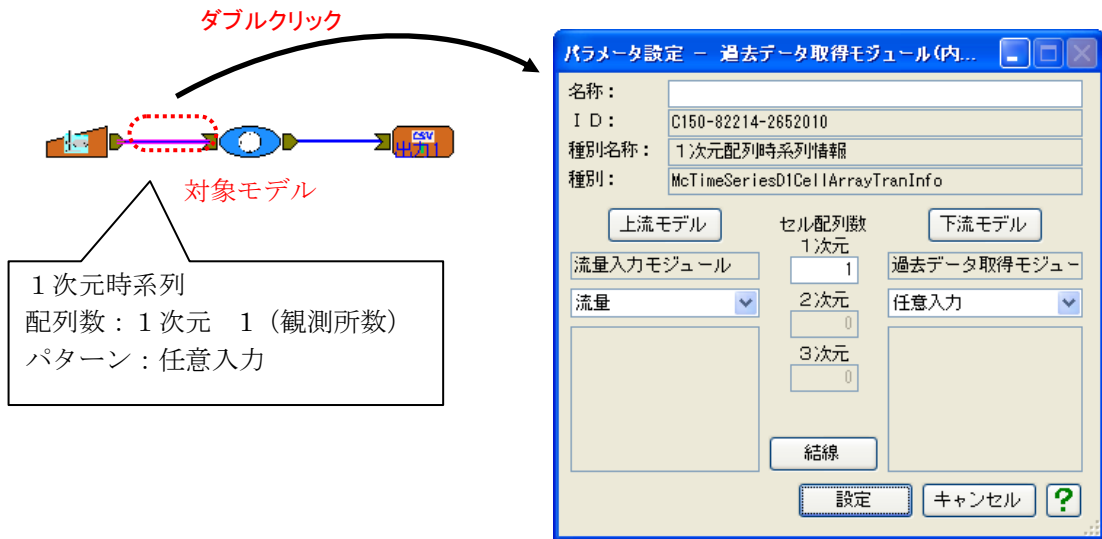


図.1 モデル接続

②要素接続は、以下の通り設定する。

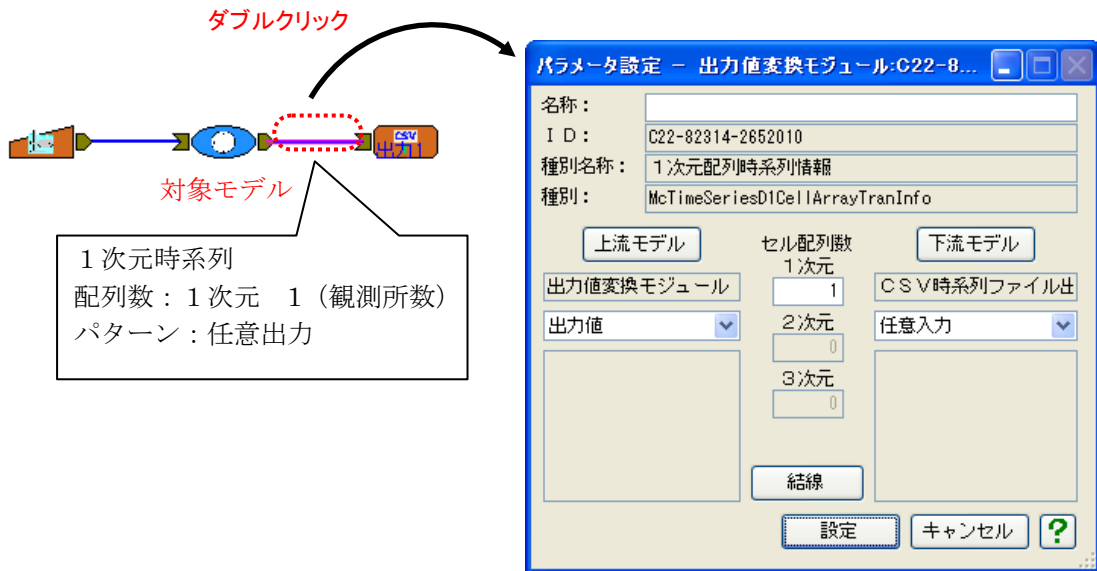
【受信側】



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う

図.2 要素接続（受信側）

【送信側】



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う

図.3 要素接続（送信側）

## 2) パラメータ設定画面

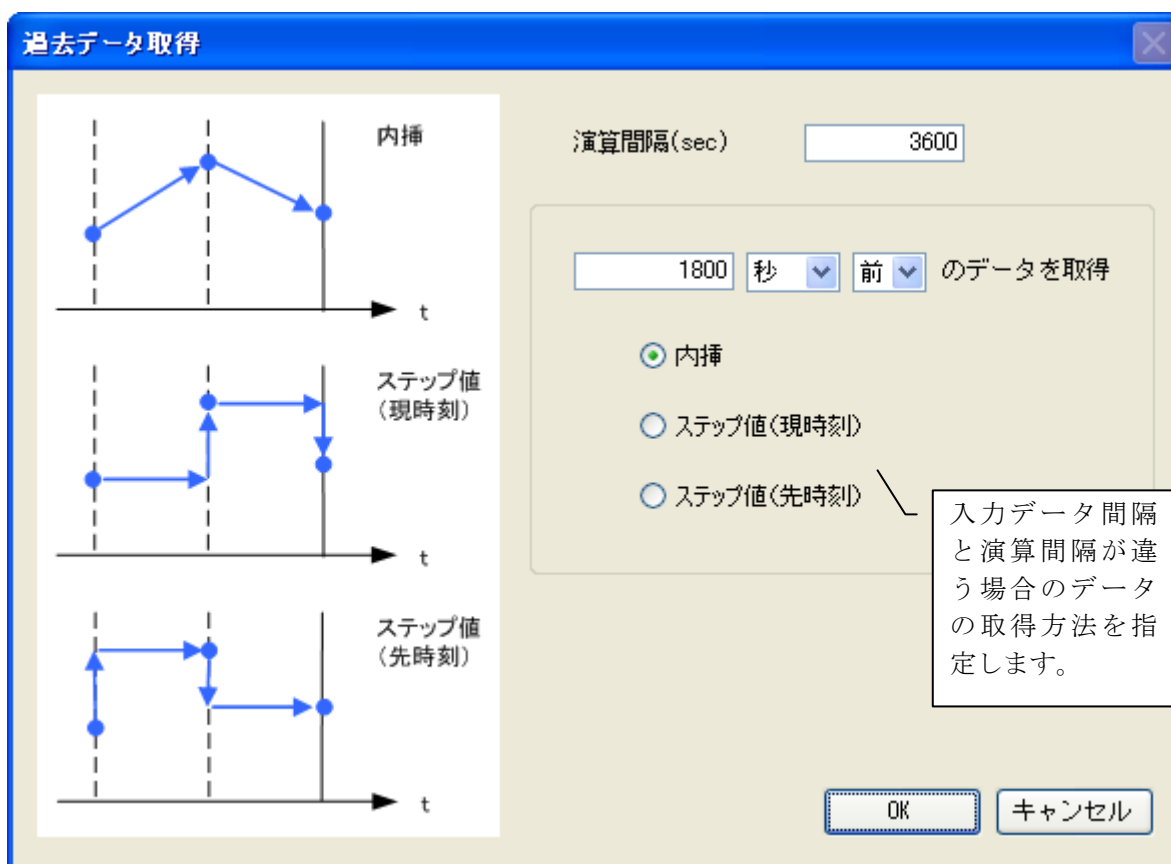


図.4 個別 GUI レイアウト図 (過去データ取得モジュール)

---

### 3) 入力データ

1次元時系列の任意値データを入力する。

時間	観測所 1
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value="任意値"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
:	:
:	:

図.5 入力データフォーマット

### 4) 出力データ

1次元時系列の任意値データが出力される。

時間	観測所 1
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value="任意値"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
:	:
:	:

図.6 伝送データイメージ